

シートシャッターが主力の小松電機産業（松江市、小松昭夫社長、050・3161・2490）にとって、経営を支えるもう一つの柱が水関連機器管理システム「やくも水神」だ。クラウドコンピューティングを採用し、スマートフォンやタブレット端末（携帯型情報端末）から上下水道などの設備を遠隔管理できる。独立系企業ながら、競合する大手電機メーカーを向こうに回し、全国390自治体・8700

施設への導入実績を持つ。水道機器は創業当時から手がけてきた同社の本業。しかし現在の地位を築いた背景には、ITの進歩に合わせて時々の最新技術を取り込み、機能を磨いてきたことがある。

1977年の提供開始当初は電電公社の専用線を引っ張る方式だった。88年には公衆電話回線によるデータ通信とパソコンで遠隔監視す



る方式を採用。2000年にNTTドコモのポケット通信とiモードを使ったシステム提供を開始。携帯電話、インターネットの早期の産業応用を図った。その後はタブレット端末への対応、データセンターの松江と東京都の2拠点化などを進めてきた。

広域市町村合併で管理対象となる地域や機器が広がったことも追い風だ。例えば、やくも水神を導入した鹿児島県霧島市は管理対象が52カ所にも分散する。担当者が自宅からでもバルブなどを操作でき、災害発生時の初動対応を迅速化できる。

上下水道だけでなく、融雪や水門、放射線計測などにも対象機器を広げてき

クラウドで水機器管理

小松電機産業



クラウドコンピューティングを採用し、水関連機器をスマホ上で遠隔管理

た。今後の方針について小松社長は「（もう一つの主力商品である）シートシャッターも遠隔管理できるようにしたい」と話す。工場の空調管理を効率化するメリットが期待できる。

やくも水神はクラウド方

式のため、同社のデータセンターには客先の水関連機器の稼働データが刻々と蓄積されていく。このビッグデータをいかに活用し新サービスにつなげていくかも検討課題だ。

（広島編集委員・清水信彦）